

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築（新築）2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸アリーナプロジェクト	階数	地上7階
建設地	神戸市中央区新港町130番1,130番2	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	10,000人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年3月9日
敷地面積	23,694 m ²	作成者	株式会社大林組
延床面積	12,179 m ²	確認日	2023年3月9日
延床面積	32,282 m ²	確認者	07237-25 岩岡



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ①参照値: 100% ②建築物の取組み: 92% ③上記+②以外の: 92% ④上記+: 92% <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 4.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0</p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
<p>バリアフリー計画</p> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>3.0</p>	<p>建築物の耐震性等</p> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>4.0</p>	<p>まちなみ・景観への配慮</p> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>5.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>0 「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」Ⅲ類 ・大屋根(アーチ部)は「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」Ⅰ類相当</p>		
<p>配慮の概要</p> <p>・景観協議による神戸市街並みとの調整を踏まえた計画 ・外構緑化指数の確保 ・建築バルコニー部を利用したピロティ空間や中高木による緑陰の確保 ・新港突堤西地区まちづくり条例に遵守した計画</p>		
<p>その他の配慮事項</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)神戸アリーナプロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築
■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.6
Q1 室内環境							0.40			3.3
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用						-	-	-	-	
1 昼光率						-	-	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備						-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1 昼光制御						-	-	3.0	-	
3.3 照度						-	-	-	-	
3.4 照明制御						3.0	1.00	3.0	-	
4 空気質環境						4.5	0.25	-	-	4.5
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建基法規制対象外・VOC放散量が少ない建材を全面的に採用				5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						4.0	0.30	-	-	
1 換気量		アリーナ(中央管理式)は興行場法により36CMH/人を確保				5.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能						-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		アリーナCO ₂ 中央監視				5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.4
1 機能性						3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		内装のコンセプト・機能が明確であり、照明計画を含めバース等で事前検証を実施。				5.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		評価する取り組みの内①②③⑥⑦⑧⑩を実施。				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		品確法における評価方法基準で投球相当としている。				4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気・高湿系排気は長寿命化を図り、ガルバリウムダクトを使用				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		重要度に応じた空調換気設備の系統の区分化、バックアップ				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具、災害時の汚水の一時貯留、受水槽の緊急用取水口取付				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		-	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.3未満としている。	4.0	1.00	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観協議(神戸市景観協議会との全4回打合せ)・新港突堤西地区まちづくり協定書の順守	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		イベント時だけでなく、日常的に地域に利用される施設としての整備・マリナー計画との調整	4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	5mほど突出したバルコニー及びピロティ空間・緑被率の確保	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPlm=0.60(6地域)、レベル5.0	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.5	0.50	-	-	2.5
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	エネルギー消費全体の半分以上の用途構成の把握可能なシステム	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ・自動水栓、節水型便器(大:4.8L/回、小:2.8L/回)	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床シート(東リフロアリューム)、ボード(吉野石膏 ソーラトン)、舗装(再生クラッシュラン)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能で、かつ再利用できるユニット部材を用いている。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算が3.3	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車施設および出入口等は周辺道路の渋滞緩和に配慮した計画とし、交通シミュレーションも実施している。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	1.00	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	